

テーマ 6 商品売買

重要度 ★★★

商品売買の会計処理とは、商品の仕入・売上取引を、一定の方法により記録・計算することをいいます。

商品売買については、簿記入門Ⅰにおいて『分記法』『三分法』などの会計処理を中心に学習しましたが、ここでは、期末商品棚卸高の算定のプロセスや、商品の減耗について学習し、商品売買についてさらに理解を深めます。



このテーマの学習内容

テーマ番号	学 習 内 容	学習回数
6-1	商品売買の基礎	入門Ⅰ第5回
6-2	分記法	入門Ⅰ第5回
6-3	三分法	入門Ⅰ第5回
6-4	返品・値引	入門Ⅰ第5回
6-5	期末商品棚卸高	入門Ⅱ第1回
6-6	商品の減耗	入門Ⅱ第1回

(注) 簿記入門Ⅰ受講生の方へ

『このテーマの学習内容』については、学習効果を鑑み、簿記入門Ⅰより一部改訂を加えております。

6-5 期末商品棚卸高

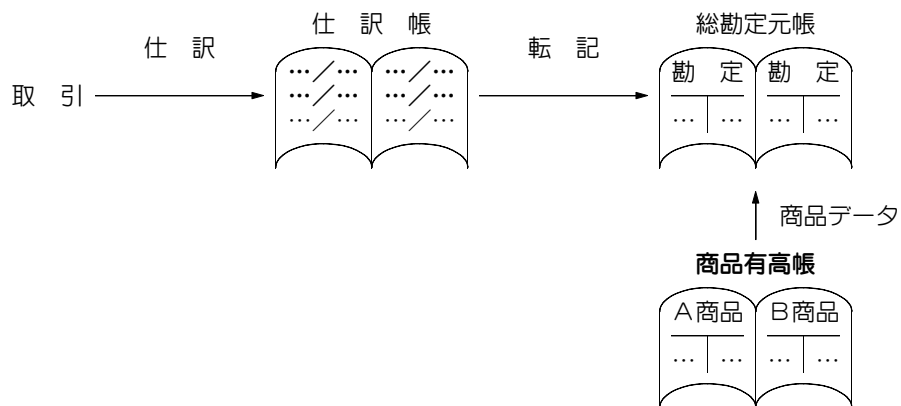
1 期末商品棚卸高

商品売買の会計処理では、資料として期末商品が与えられましたが、この期末商品には、期末商品帳簿棚卸高と期末商品実地棚卸高という2つの棚卸高（金額）があります。

2 期末商品帳簿棚卸高

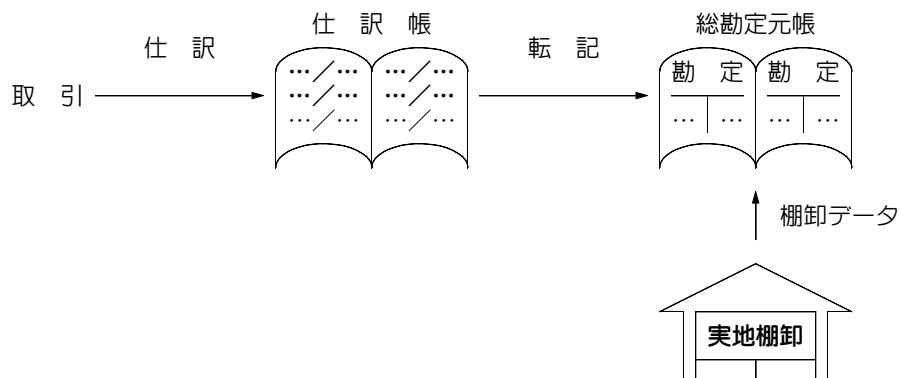
期末商品帳簿棚卸高とは、**商品有高帳**によって算定される**期末商品棚卸高**をいいます。

商品有高帳とは、商品の受入・払出の都度、一定の計算方法によって数量・単価・金額を記録し、各時点での商品残高の数量・単価・金額を明らかにする帳簿のことをいいます。なお、商品有高帳は、商品の種類別に設定されます。



3 期末商品実地棚卸高

期末商品実地棚卸高とは、期末に**実地棚卸**を行うことによって把握される**期末商品棚卸高**をいいます。



4 商品有高帳の記入方法

商品有高帳への記入は、日付を付した上で、次のように行います。

- (1) 前期繰越がある場合は、**受入欄**に数量・単価・金額を記入します。
- (2) 仕入は、**受入欄**に仕入商品の数量・単価・金額を記入します。
- (3) 売上は、**払出欄**に払出商品の数量・単価・金額を記入します。
- (4) 残高欄には、その都度、商品の残高を記入します。

商 品 有 高 帳

(単位：個／円)

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額
1 / 1	前期繰越	〇〇	△	〇〇				〇〇	△	〇〇
2 / 3	仕 入	□□	△	□□				〇□	△	〇□
4 / 5	売 上				◎◎	△	◎◎	□〇	△	□〇

5 払出単価の決定方法

商品有高帳では、商品を払い出したときに払出数量とともに払出単価も記入します。

しかし、通常、商品の受入単価は仕入の都度違うため、**商品を払い出すときには、どの受入単価を払出単価とするかを決めなければなりません。**これを**払出単価の決定**といいます。払出単価の決定方法は様々な方法がありますが、簿記入門では、下記に示した3つの方法を学習します。

(1) 先入先出法

先に仕入れたものから先に払出されると仮定して、払出単価を決定する方法。

(2) 移動平均法

単価の異なる商品を仕入れる都度、手許商品との加重平均単価を算定して、その後の払出には、この単価をもって払出単価とする方法。

(3) 総平均法

期首商品と一定期間中に仕入れた商品の合計金額を、その数量合計で割って平均単価を算定し、この単価を一定期間のすべての払出単価とする方法。

設 例

- (1) 期首商品 100個 @ 100円
 (2) 仕 入 100個 @ 120円
 (3) 売 上 150個 —
 (4) 仕 入 100個 @ 140円
 (5) 売 上 130個 —
 (6) 仕 入 100個 @ 160円

解 説 (単位：円)

1 先入先出法

商 品 有 高 帳

(単位：個／円)

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額
(1)	前期繰越	100	100	10,000				100	100	10,000
(2)	仕 入	100	120	12,000				{ 100	100	10,000
								100	120	12,000
(3)	売 上				{ 100	100	10,000			
					50	120	6,000	50	120	6,000
(4)	仕 入	100	140	14,000				{ 50	120	6,000
								100	140	14,000
(5)	売 上				{ 50	120	6,000			
					80	140	11,200	20	140	2,800
(6)	仕 入	100	160	16,000				{ 20	140	2,800
								100	160	16,000
					280		33,200			
	次期繰越				{ 20	140	2,800			
					100	160	16,000			
		400		52,000	400		52,000			

帳簿棚卸高



留意点 残高欄と払出欄への記入

仕入単価が異なる場合、残高欄は仕入れた順に分けて記入し、払出欄は先入先出法のルールにより払い出される順に記入します。

2 移動平均法

商 品 有 高 帳

(単位：個／円)

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額
(1)	前期繰越	100	100	10,000				100	100	10,000
(2)	仕 入	100	120	12,000				200	110	22,000
(3)	売 上				150	110	16,500	50	110	5,500
(4)	仕 入	100	140	14,000				150	130	19,500
(5)	売 上				130	130	16,900	20	130	2,600
(6)	仕 入	100	160	16,000				120	155	18,600
					280		33,400			
	次期繰越				120	155	18,600			
		400		52,000	400		52,000			

帳簿棚卸高

**留意点** 平均単価の算定

$$(2)\text{時点の平均単価} : \frac{100\text{個} \times @100 + 100\text{個} \times @120}{100\text{個} + 100\text{個}} = @110$$

$$(4)\text{時点の平均単価} : \frac{50\text{個} \times @110 + 100\text{個} \times @140}{50\text{個} + 100\text{個}} = @130$$

$$(6)\text{時点の平均単価} : \frac{20\text{個} \times @130 + 100\text{個} \times @160}{20\text{個} + 100\text{個}} = @155$$

3 総平均法

商 品 有 高 帳

(単位：個／円)

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額
(1)	前期繰越	100	100	10,000				100	100	10,000
(2)	仕 入	100	120	12,000				200		
(3)	売 上				150			50		
(4)	仕 入	100	140	14,000				150		
(5)	売 上				130			20		
(6)	仕 入	100	160	16,000				120	130	15,600
					280	130	36,400			
	次期繰越				120	130	15,600			
		400	130	52,000	400		52,000			

帳簿棚卸高

**留意点** 一定期間中の払出欄・残高欄の記入と平均単価の算定

総平均法の場合は、一定期間が経過しないと払出単価が決定しないため、払出欄・残高欄はそれぞれ数量のみを記入します。

$$\text{総平均単価} : \frac{100\text{個} \times @100 + 100\text{個} \times @120 + 100\text{個} \times @140 + 100\text{個} \times @160}{100\text{個} + 100\text{個} + 100\text{個} + 100\text{個}} = @130$$

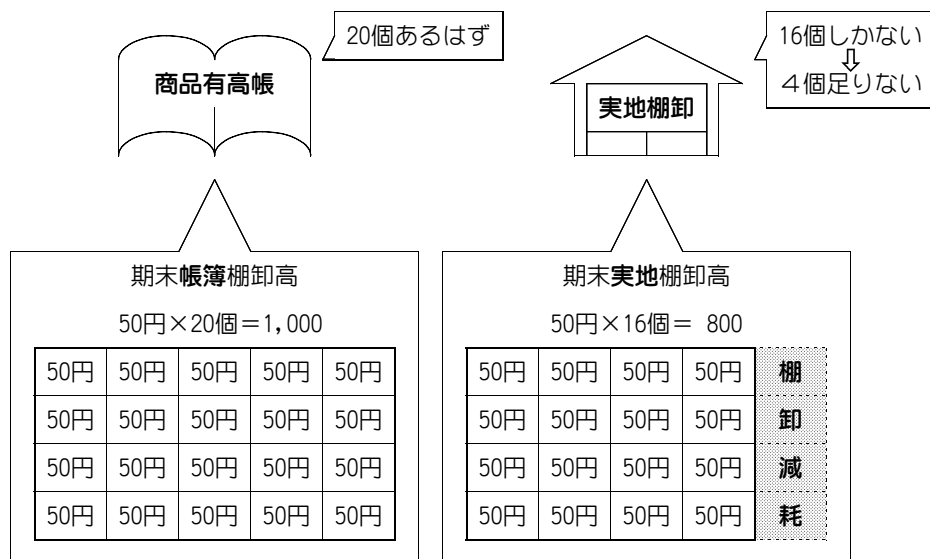
➡ トレーニング 問題 1-1

<メ モ>

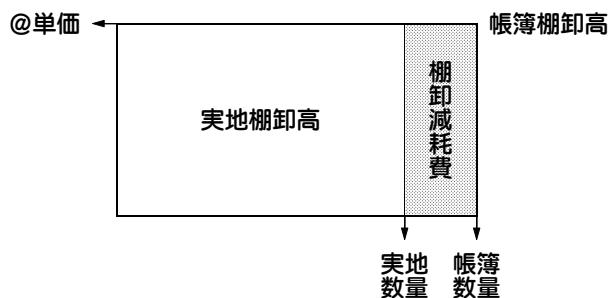
6-6 商品の減耗

1 商品の減耗

期末において商品の実地棚卸を行うと、紛失等を原因として、商品有高帳における帳簿棚卸数量より実地棚卸数量が減少していることがあります。このような棚卸数量の減少のことを棚卸減耗といいます。棚卸減耗の数量に期末商品の単価を乗じた金額は、**棚卸減耗費勘定**で処理します。



2 棚卸減耗費の算定



- (1) 帳簿棚卸高の算定

$$\text{帳簿棚卸高} = \text{帳簿数量} \times \text{@単価}$$

- (2) 棚卸減耗費の算定

$$\text{棚卸減耗費} = (\text{帳簿数量} - \text{実地数量}) \times \text{@単価}$$

3 会計処理

期末帳簿棚卸高を用いて売上原価の算定を行った後に、棚卸減耗費の算定を行います。

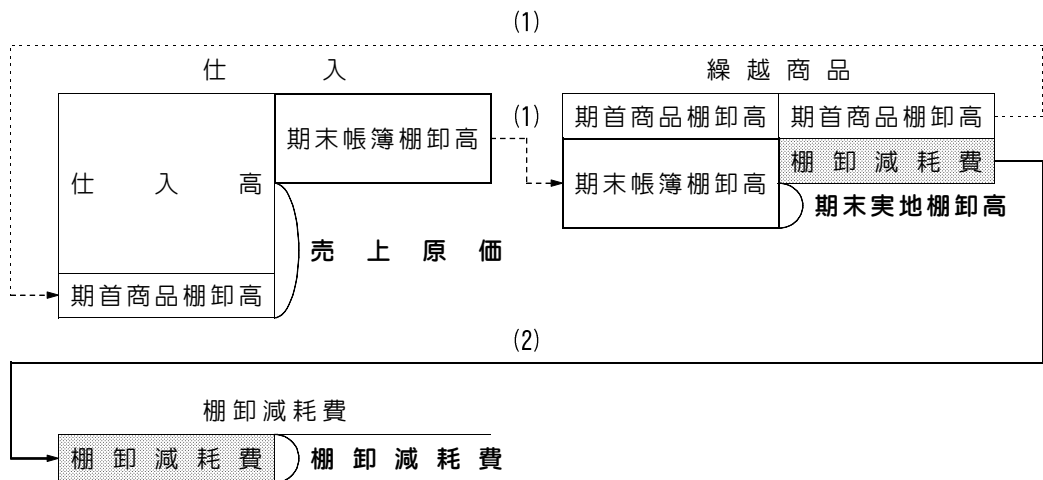
(1) 売上原価の算定

(借) 仕	入	×××	(貸) 繰	越	商	品	×××
	繰	越	商	品	※	×××	仕
						入	×××

※ 期末帳簿棚卸高

(2) 棚卸減耗費の計上

(借) 棚	卸	減	耗	費	×××	(貸) 繰	越	商	品	×××
-------	---	---	---	---	-----	-------	---	---	---	-----



4 期末商品に単価の異なるものがある場合

先入先出法を採用している場合に棚卸減耗が発生し、単価の異なるものがあるときの棚卸減耗費の算定は、先に仕入れたものから減耗が生ずると考えて計算を行います。



設 例 棚卸減耗費

(1) 会計期間は1月1日～12月31日

(2) 決算整理前試算表 (単位: 円)

繰越商品	500	売上	8,800
仕入	6,000		

(3) 期末商品棚卸高

① 帳簿棚卸数量 20個 (単価@50円)

② 実地棚卸数量 16個



解 説 (単位: 円)

1 決算整理

(1) 売上原価の算定

12/31	仕入	500	繰越商品	500
〃	繰越商品	1,000	仕入	1,000

(2) 棚卸減耗費の計上

〃	棚卸減耗費 ※	200	繰越商品	200
---	---------	-----	------	-----

※ (帳簿棚卸数量20個 - 実地棚卸数量16個) × @50円 = 200円

繰越商品			
1/1 前期繰越	500	12/31 仕入	500
12/31 仕入	1,000	〃 棚卸減耗費	200

仕入	
△/△ □□□ 6,000	12/31 繰越商品 1,000
12/31 繰越商品	500

売上	
	△/△ □□□ 8,800

棚卸減耗費	
12/31 繰越商品	200

2 決算整理後試算表

決 算 整 理 後 試 算 表			
繰 越 商 品	800	売 上	8,800
仕 入	5,500		
棚 卸 減 耗 費	200		

➡トレーニング 問題1-2～1-3

設 例 期末商品に単価の異なるものがある場合

商品有高帳における期末棚卸高は次のとおりである。なお、期末実地棚卸数量は16個である。また、当社は、払出単価の決定方法として先入先出法を採用している。

残	高	欄	
数 量	単 価	金 額	
5個	40円	200円	← 先に仕入れたもの
15個	50円	750円	← 後に仕入れたもの

 解説 (単位：円)

(1) 棚卸減耗費

先入先出法を採用しているため、先に仕入れたもの（単価40の商品）から減耗が生ずると考える。

$$(20\text{個}-16\text{個}) \times @40 = 160$$

(2) 商品有高帳への記入

商 品 有 高 帳										(単位：個・円)	
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高			
		数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額	数 量	単価	金 額	

➡トレーニング 問題 1-4~1-5

テーマ 8 債権・債務

重要度 ★★★

債権とは、金銭の支払及び物品の引き渡しを請求する権利をいい、簿記では、資産として取り扱われます。

債務とは、金銭の支払及び物品の引き渡しを履行する義務をいい、簿記では、負債として取り扱われます。

債権・債務については、簿記入門Ⅰにおいて『売掛金・買掛金』『前渡金・前受金』『貸付金・借入金』『立替金・預り金』を学習しましたが、ここではその他の債権・債務などを学習します。



このテーマの学習内容

テーマ番号	学 習 内 容	学習回数
8-1	債権・債務（その1）	入門Ⅰ第7回
8-2	債権・債務（その2）	入門Ⅱ第1回

8-2 債権・債務（その2）

1 未収金・未払金

固定資産の売却など、商品の販売以外の取引によって生じた債権は、**未収金勘定**で処理します。また、固定資産等の購入など、商品の仕入以外の取引によって生じた債務は、**未払金勘定**で処理します。

2 仮払金・仮受金

支出があったが、その相手勘定または金額が未確定の場合には、**仮払金勘定**で処理します。また、収入があったが、その相手勘定または金額が未確定の場合には、**仮受金勘定**で処理します。そして、**適正な勘定科目または金額が確定したときに、仮払金勘定や仮受金勘定から、適正勘定への振替処理**を行います。

**設 例** 未収金・未払金

11月14日 所有している土地（取得原価2,500円）を6,500円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

11月30日 未収金6,500円を現金で受け取った。

12月5日 備品を3,000円で購入し、代金のうち1,000円は小切手を振り出して支払い、残額は後日支払うことにした。

12月21日 未払金2,000円を現金で支払った。

**解 説**（単位：円）

11/14	未 収 金	6,500	土 地	2,500
			土 地 売 却 益	4,000
11/30	現 金	6,500	未 収 金	6,500
12/5	備 品	3,000	当 座 預 金	1,000
			未 払 金	2,000
12/21	未 払 金	2,000	現 金	2,000

未 収 金	
11/14 諸 口 6,500	11/30 現 金 6,500

未 払 金	
12/21 現 金 2,000	12/5 備 品 2,000

➡トレーニング 問題1-6

**設 例** 仮払金・仮受金

- 3月10日 従業員の出張にあたり、旅費交通費の概算額6,000円を現金で支払った。
- 3月12日 出張中の従業員から8,000円の当座振込があったが、その内容は不明である。
- 3月15日 従業員が帰社し、旅費交通費5,640円の報告を受け、残額360円を現金で受け取った。また、3月12日の当座振込は、得意先に対する売掛金の回収である旨の報告を受けた。

**解 説** (単位：円)

3/10	仮 払 金	6,000	現 金	6,000
3/12	当 座 預 金	8,000	仮 受 金	8,000
3/15	旅 費 交 通 費	5,640	仮 払 金	6,000
	現 金	360		
	仮 受 金	8,000	売 掛 金	8,000

仮 払 金	
3/10 現 金 6,000	3/15 諸 口 6,000

仮 受 金	
3/15 売掛金 8,000	3/12 当座預金 8,000

➡トレーニング 問題1-7



参考 修正仕訳

取引の仕訳を仕訳帳に誤って行い、そのまま総勘定元帳へ転記してしまった場合には、それを修正するために、**修正仕訳**を行います。

例えば、『掛売上20,000円』という取引で考えてみましょう。

(借) 売	掛	金	20,000	(貸) 売	上	20,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

(1) 金額を間違えている場合

金額を誤って、次の仕訳を行っていたとします。

(借) 売	掛	金	2,000	(貸) 売	上	2,000
-------	---	---	-------	-------	---	-------

その場合には、次の修正仕訳を行い、勘定残高を正しく修正します。

(借) 売	掛	金	18,000	(貸) 売	上	18,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

(2) 勘定科目を間違えている場合

勘定科目を誤って、次の仕訳を行っていたとします。

(借) 買	掛	金	20,000	(貸) 売	上	20,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

その場合には、次の修正仕訳を行い、勘定科目と勘定残高を正しく修正します。

(借) 売	掛	金	20,000	(貸) 買	掛	金	20,000
-------	---	---	--------	-------	---	---	--------

(3) 貸借反対に仕訳を行っている場合

仕訳の貸借を誤って、次の仕訳を行っていたとします。

(借) 売	上	20,000	(貸) 売	掛	金	20,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

その場合には、次の修正仕訳を行い、勘定残高を正しく修正します。2倍の金額で修正しないと、正しい勘定残高に修正できない点に注目してください。

(借) 売	掛	金	40,000	(貸) 売	上	40,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

➡トレーニング 問題1-8

<メ モ>